

第 1 回舞鶴市廃棄物減量等推進審議会

摘録

【日時】平成 28 年 10 月 5 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 35 分

【場所】舞鶴市政記念館 ホール

【出席委員】足立委員、内海委員、尾上委員、木谷委員、品田委員、田中委員、
谷口委員、西山委員、藤原委員、森委員、山川委員

【欠席委員】青山委員

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶
4. 委員紹介
 - ・委員の紹介、事務局の自己紹介
5. 会長、副会長選出
 - ・会長には、委員の互選により山川委員が就任
 - ・副会長には、会長一任の発議により青山委員と品田委員が就任
6. 議題
 - (1) 一般廃棄物（ごみ）処理状況について
 - ・事務局から資料 5「一般廃棄物（ごみ）処理状況について」の説明
 - < 質疑応答 >
 - ・「飛灰」の意味
 - 焼却時に出る排気ガスと一緒に飛ぶような軽く細かい灰
 - ・ごみ処理の流れの確認
 - ①家庭系と事業系可燃ごみの処理について
 - 同じ収集車両による混載が可能で、清掃事務所搬入後の処理は同じ
 - ②事業系ペットボトルの処理について
 - 産業廃棄物のため各産廃業者が処理している
 - ③街路樹の剪定枝の処理について
 - 適切に処理され運び込まれたものは焼却処分する
 - ・可燃ごみに混じっている不燃物や燃え残って困るものについて
 - 缶類多数、夏場特有の不燃物（BBQ 金網など）、直径 10cm 超の丸太
 - < 意見 >
 - ・一般廃棄物最終処分場に明るいイメージのニックネームをつけてはどうか。

(2) 一般廃棄物（ごみ）排出量・処理量等の推移について

- ・事務局から資料6「一般廃棄物（ごみ）排出量・処理量等の推移について」説明

< 質疑応答 >

- ・事業所やスーパー等での古紙回収量について
→現状市で把握する術がないが、今後検討していきたい。
- ・大波の最終処分場が想定より早く埋まっている理由
→建設準備中に遺跡が見つかり調査が必要になる等の事情があり、予定より3年遅れて完成し、その間仮置きしていた分を一気に運び入れたため。
- ・集積所収集と直接搬入の市の経費について
→一概にどちらが安いとは言い難い。集積所収集は許可業者の負担が増えれば経費が増える可能性はあるし、直接搬入が増えれば各処理施設の整備などが必要になり経費が増える可能性がある。
- ・ごみの中身で多いものは何か
→1人1日に出すごみ量で見ると、紙類が一番多く出されており、次に生ごみの厨芥類が多い。紙類については資源ごみとしての分別を、生ごみについては水切り等、ごみ減量対策をお願いしている。
- ・ごみの排出量に古紙の集団回収量は含まれるのか
→含まれない。（→可燃ごみの古紙が分別、資源化できれば影響は大きい。）
- ・（可燃）ごみの内訳はどの様に把握しているのか
→年6回、清掃事務所において、焼却前のごみをクレーンで複数抽出し、10種類程度の組成分析をして把握している。
- ・粗大ごみの戸別収集の頻度、種類について
→毎月第2・第4木曜日に収集を行っているが、有料のため直接搬入が多いのが現状。戸別収集で出されるものでは、家具類が多い。

< 意見 >

- ・集積所収集と直接搬入の場合のコスト比較について、環境負荷という面も加味した社会全体のコストの観点も含め検討されたい。

(3) 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について「概要」

- ・事務局から資料7「一般廃棄物（ごみ）処理基本計画について『概要』」説明

< 質疑応答 >

- ・「リペアサービス」の内容について
→リペア（=repair「修理する」の意）のとおり、家具や自転車等が壊れても修理して使えるようにするサービスを指しており、それを提供する事業者の拡大を進めていきたい。
- ・プラスチック容器類の資源化率（重量比で約6割）について
→プラスチック容器類以外の「製品」の混入や手選別での回収漏れといったことが要因として考えられる。他市と比べても、恐らく低いと思われる。

- ・リペアサービスについて、「直すより買う方が安い」世情に対しビジョンはあるのか
→ごみになるものを買わない、今あるものを修理してでも長く使っていただくための体制を整えることがごみ減量のビジョンだが、具体策をあげるには至っていない。

< 意見 >

- ・リペアサービスについて、それを提供する事業者に対して、自治体で広報活動するといったインセンティブをつける等、何らかの合わせ技を含め検討されたい。

7. その他

< 質疑応答 >

- ・コンポスト容器購入費の補助について
→現在も補助制度はあり、電気式生ごみ処理機購入費の補助制度もある。今後とも続けていく方針である。

< 意見 >

- ・小学校で環境について学習する時間があり、子供を通して啓発が出来れば、大人へも動機づけが出来るのではないか。
- ・「リペアサービス」について、例えば関係の事業者を1箇所に集約する等の事業者にも利用者にも利があるようなことが出来れば良いのではないか。
- ・ごみの減量がやや停滞している現状から排出量を1割近く下げるという大きな目標を実現するには、インパクトのあるやり方が必要になるのではないか。
- ・介護保険サービスに頼らざるを得ないような高齢者のごみ出しの現状を踏まえて、社会的弱者に対する改善を検討していく必要があるのではないか。
- ・具体的なきっかけがないと、減量は難しいと思う。例えば全国や京都府と言わずとも、北近畿の自治体でライバルをつくって数値で「環境都市舞鶴」の良さを示すのも一つの方法だと思う。
- ・ごみの問題は、生活に直結する身近なものである一方、法律や専門用語が絡んでくると日常からかけ離れたものになる両面があると感じている。委員として地域との橋渡しが出来るとなればと考えている。
- ・高齢化が進み、断舎利や終活といった言葉も広がる中、一挙に物を処分する人も増えてくるのではないか。そういった事に対する対応も検討が必要ではないだろうか。
- ・舞鶴市は近年特に観光に力を入れていることもあり、観光客の出したごみの処理についても見定めていく必要があるのではないか。
- ・子供の成長とともにごみは増える現状に対し、この審議会で学んだことを、まずは自分が排出するごみの削減に繋げて考えていきたい。
- ・猪や鹿などの鳥獣について、山村での食肉利用も参考に、廃棄するだけでなく別の活用方法を考えていく手法もあるのではないか。